

# JAPANESE TEACHERS ASSOCIATION OF TEXAS

## テキサス日本語教師会ニュースレター

HTTP://WWW.JTAT.ORG

### 1. 会長の挨拶

少しずつ秋風がそよふくテキサスの心地よいきせつになってきました。進学年度の始まりとともに、新しい年度の計画が形をとり始める頃でもありますよね。今年目標は、新しいチャレンジはなんでしょうか。先生方の新年度により多くの実りがありますよう心より期待しております。

皆様ご存知のように、先日2020年のオリンピック、パラリンピックが東京にて開催されることが決まりました。一昨年の東日本大震災からの復興への道が長期化する中、一条の光が射して、開催までの7年のこれからの新たな夢や希望が生まれる思いがしました。震災の年より継続的に「絆」のプログラムで日米の高校生の交流を推進、支援を続けていらっしゃる先生方も多いと存じています。草の根の活動をこれからもたくさん広めて頂ければうれしいです。そして、日本との繋がりをより多く持つ機会を学習者に広め、日本語学習への意義や目標としても深めていってほしいと思っています。

秋のJTAT定例会の開催も11月に迫ってきています。より多くの先生方に参加いただき、近況をお伺いできるのを楽しみにしています。JTATの活動報告、話し合いともに日本語教育の質的な向上、教師間・コミュニティーのネットワーク強化、アドボカシー推進、新進日本語教師の支援、などの重要項目、さらに学校間プログラム間の連関、日本の文化やトレンドを取り入れた魅力ある活動や留学プログラムの推進など、様々な項目におよぶ話し合いができるよう期待しています。

秋の定例会が例年開催されるテキサス外国語学会(TFLA)は、今年が60周年という記念の節目にあたります。定例会当日金曜日のTFLAの昼食会では、ダラス、フォートワース地区の高校生、大学生によるよさこいダンスが発表さ

### INSIDE THIS ISSUE 目次

1. 会長のあいさつ	1
2. JTAT夏の勉強会報告	2
3. きずな Project	2
4. Study Abroad Japan 2014 報告	4
5. The YFU プログラム体験談	
5. 新会員, 再入会の先生方から	5-6
7. 2014日本語スピーチコンテストについて	

れる事が決まりました。よさこいの情熱パフォーマンスは、日本の復興への願いやエネルギーを込めて、多くの外国語教育関係者へ力強く示している機会として、楽しみなところです。JTATの定例会当日は、昼食会に並び、セッション終了後に「行われるTFLA60周年のレセプションも開催されますので、併せてぜひご参加下さい。その機会を以まして、今年2013年TFLAから来年再びサンアントニオに戻って開催される2014年のACTFULに向けての教師会の活動プランや展望を皆様とともに築いていくさきがけの機会として、さらなるご協力をお願いする次第です。

2013年9月

JTAT 会長 竹内弥生

**JTAT Annual Meeting 定例会**  
**@TFLA Fall Conference in Frisco, TX**  
**Fri., Nov. 8**  
**9:15-10:30AM**  
**Whirl Room**  
たくさんの方のご出席をお待ちしています。

**懇親会 Networking & Fellowship Gathering in the evening: TBD**

## 2. JTAT 夏の勉強会実施報告

毎年恒例の JTAT 夏の勉強会は、20名の参加者をお迎えし、5月19日(日)に行われました。今年はテキサス大学オースティン校アジア研究学部が会場と休憩時間のお茶菓子等をご提供くださいました。ありがとうございました。

今年のテーマ『持続可能な日本語プログラム推進のために：カリキュラムデザイン、学習テクノロジー、クラス活動、そして連関、アドボカシーまで』のもと、David Shimizu 先生(LASA, Austin)が transfer について、プレフューメ裕子先生(バイラー大学)が blended learning について、真田和子先生(Carrollton-FB ISD)がスピーチコンテスト、アドボカシーとファンドレイジングについて、そしてリード真澄先生(ウッドランズ高校)が AP Japanese とアドボカシーについてお話しくださいました。また、相田先生、竹内先生、福重先生も普段お使いになっているアクティビティーやテクノロジーをご紹介くださいました。おかげさまで色々なトピックにふれることができ、バックグラウンドや教えている環境等が様々な参加者の皆様もそれぞれ何か得るものがあったのではないのでしょうか。

また、会長の竹内先生から連関に関してお話があり、テキサス州内の日本語プログラムの把握を進め、縦横のつながりを強めて、皆で日本語教育を盛り上げていこうと確認しました。

発表してくださった先生方、年度末のお忙しい中参加くださった会員の皆様、本当にありがとうございました。今後もよりいっそう有意義なサマーワークショップが実施できるようがんばりたいと思います。ぜひ、皆様からもご意見等お聞かせくださいますよう、お願いいたします。

書記 藤井佳子(バイラー大学)文責

## 3. キズナプロジェクト 2012-2013 年

「東北へ！」

ウッドランズ高校 リード真澄

2012年7月、外務省のキズナ強化プロジェクトにより23名の高校生と一緒に東北を訪れ、被災地の様子を見て現地の皆さんと交流する機会に恵まれました。訪問した気仙沼大島で地元の皆さんから暖かいおもてなしを受け、是非ご恩返しをしたいと思っていましたが、ちょうど一年後、9名の生徒に保護者が二人加わって、ささやかながら海岸清掃や英語を教えるボランティアをさせて頂きました。また、2011年にウッドランズ高校にご招待した、津軽三味線奏者の浅野祥さんも大島に来て下さり、皆さんのためにコンサートをすることも出来ました。三日間と言う短い期間でしたが、生徒と一緒に大変充実した滞在をすることが出来、本当に感謝しています。

東日本大震災以来、常に東北の皆さんのことが頭から離れません。震災直後に募金を集めてお送りした石巻の宮城水産高校は、今年始めに同じキズナプロジェクトでウッドランズに来て頂くことが出来ました。かねてから野球部を招待したいと思っていた所、キズナによってそれが実現。ウッドランズ高校の野球部員と一緒に練習したり、ヒューストンのチームと試合をしたりしましたが、そのサポートをしながら私自身、そしてホストした生徒達も充実した一週間を過ごすことができました。今回、私たちは宮城水産高校の皆さんと再会し、昨年訪れた仮校舎でなく、被災して1年半使えなかった元の校舎でお会いすることが出来、感激しました。2011年6月に訪問した際は全く使用できず、生徒も教職員もいない痛々しい姿だった校舎は、終業式を迎えて活気に満ちあふれていました。

今回、気仙沼大島のみならず、石巻でも新たな出会いがあり、更に福島で仮住まいを続けている皆さんとも連絡を取り始めています。また、宮城出身でご両親も被災された浅野祥さんは東北で精力的にボランティアをされていて、来年是非ご一緒に何かしましょう、と約束してお別れしました。勿論、宮城水産高校とも今後交流を続けて行きたいと思っています。

20年近く続けて来た日本の高校（現在、千葉の稲毛高校、京都の立命館高校を始め、大阪や高知の高校とも交流しています）との交換プログラムの中に、東北との接点が変わり、生徒たちにとって、より有意義な日本滞在になりました。まだ高校生ですが、英語を教えるボランティアなどに関心を寄せてくれるのは嬉しいことです。出発前に何度も集まり、どう教えようか、何を教えようか等、一緒に考え、教材も作りました。単なる学校訪問、ホームステイや観光に終始することなく、今後も東北での活動に焦点を当てた夏の滞在にしたいと考えています。

#### 4. Study Abroad Japan 2013

東北の復興の強さから学んだこと -----  
2013 年日本語夏の短期留学プログラムを終えて

ノーステキサス大学 竹内弥生

今年 2013 年は、ノーステキサス大学の夏の短期留学プログラムも 5 回目を迎えました。様々な理由により参加者は最終的に 8 人という小さいグループになりましたが、心に残る体験が実現できました。過密なスケジュールではありましたが、今回初めて一昨年（2012）の東日本大震災、津波による大きな被害を受けた東北地域を訪れる機会を得て、最後の週の 3 日間を宮城県仙台市、岩手県陸前高田市にて過ごしました。日本語の 2 年生の内容を履修しながらの旅とプログラムの研修内容の毎日で、

疲れも相当出ている時期でしたが、3日間の滞在には強烈なインパクトを受けました。震災の傷跡のいまだ生々しい景色に遭遇し、呆然として涙が止まらない学生もいました。まちの記憶の消えてしまった風景、心に残るまちの姿、小高い山の上の神社にのぼる階段の途中まで襲った津波の痕。様々な角度からまちを眺め、ほとんど更地になってしまったまちの風景と重機の音の響き渡る景色から、

「奇跡の一本松」が再生され、復興の希望としての光を放っているのを見つけました。未曾有の災害に遭われて現在を未来へとつなげていく毎日を生きる地域の方々は、とても温かく私たちを迎えてくださいました。陸前高田市第一中学校への訪問、まちの集会所「りくカフェ」さんでのひと時、最終日の米崎町ホタテ養殖組合でのボランティアを通して人々の強さと滋味深い優しさが、学生たちの旅の疲れも逆にやさしくほぐしてくださいました。学生たちは案内をして下さった浅沼ミキ子さんの出版されたばかりの絵本『はなみずきのみち』を読み、朗読を京都の宇多野小学校に続き、陸前高田第一中学校でも試みしました。決して上手くできた朗読ではないといえ、お話を聞いてくれた子供たちは静かに耳を傾けてくれました。そういう、言葉にあらわれない心の動きを学生はとても敏感に感じ取っていたようです。言葉を学習し、しかし言葉のないコミュニケーションにも心の琴線をゆすぶられる体験を、震災後の日本でしたこと。この力を、未来に活かして欲しいと願い、今年の夏の留学プログラム終了を祝う言葉として贈りました。



今年で二回目のベイラー・イン・ジャパンには本稿に学生10名が参加しました。ウイークでは問う子世で、日本語の授業、会社訪問、都内見物のほか、日本の大学誠意や歌舞伎教室、茶道教室、キャラ弁教室など、日本ならではの文化体験をしました。週末は我孫市でホームステイやボランティア活動をしました。2週間のコースワーク終了後は、東北、京都、広島、宮島へ1週間旅行しました。



キャラ弁教室



#### 南三陸、海岸のゴミ拾いなど

東北では、今年も被災地を訪問して、絵本の読み聞かせやしの朗読、海岸のゴミ拾いなど様々な活動をしました。その中でもハイライトは、気仙沼でのちびっ子バレーボールクラブ（小2～6）との交流試合！本学「与太郎チーム」のバレー経験者は私ともう一人の元ジュニアオリンピック代表者だけ。

「小学生に負けたら、晩御飯抜き～！」という叱咤 劇励（との脅し）の末、どうにか勝って大学生チームのメンツを保つことが出来ました。！ゲームの後、クラブのコーチSさんが、チームキャプテンでもある孫娘が震災以来あんなに大声を上げて楽しそうに笑ったのは初めてだと言って下さいました。こんな私たちでも被災地の人たちを元気づけてあげられるのだと改めて実感しました。現在の被災地は、外見的には徐々に復興しつつあるようですが、心のケアは今まで以上に必要だということです。今大切なことは、継続的な支援活動を続けることだと思うので、また来年も違うグループを引率して同じ地域を訪問しようと思っています。

## 5. YFU プログラムに参加した高校生からの体験談

### The YFU Experience

The first major thing about YFU, something I didn't expect going into it and can still barely believe, has little to do with the six weeks program itself. Before departing, every participant (more-or-less; I believe it's separated by particular scholarship and departure date, but nonetheless an impressive group of people) goes to an orientation in California. It's a collection of people all over America with similar interests (i.e. Japan) in one place to spend three nights together. I made powerful friendships in those few days that were and are still reinforced by a YFU sponsored Facebook group. As far as the trip itself, it was an indescribable experience. People ask me how it was, seemingly not realizing the futility of trying to answer that question. It was good, to be sure, but that answer is neither complete nor perfectly accurate; it was not without its bad points. It was invigorating, it was illuminating, it was full of joy and hard work and communication and miscommunication and somehow in the midst of days being actively focused at all times, I ended up with bonds that I couldn't break were I to try.

Trey Gonsoulin

The month I spent in Kobe will be one I never forget. The dreadful 100% humidity with temperatures of over 100°F, the satisfaction you get from stepping into the air conditioned train after a long day at school, my classmates and those I participated in club activities with, and last but not least: my host family. Coming from an Asian background combined with having learned about Japanese culture for several years at school, I wasn't really surprised by the uniqueness of the culture. Instead, what probably surprised me most was that everyone thought I was Japanese. I got to completely blend in with society, and nobody knew I was a foreigner unless they got to know me. I wasn't treated in a special way, nobody offered me help, and it was one of the most liberating experiences of my life because it was the first time I was truly independent. I was lucky that my host family also let me act on my own, the only requirement they really had was that I tell them if I would be home for dinner. I was able to travel to Kyoto with friends and experience Gion Matsuri, or travel with a few friends from school and wander around Osaka. Though my experience was probably a bit different than most others, for a variety of reasons, I can't think of a reason not to take a chance and take part in an overseas exchange program.

Teguh Hofstee  
Liberal Arts and Science Academy

## 6. 新会員の先生方からの一言

### バクスター紀子先生

はじめまして。バクスター紀子と申します。

私は現在テキサス サンアントニオにいます、INCARNATE WORD HIGH SCHOOL (IWHS)で日本 I と II を教えております。

私の日本語教師暦は 2008 年より始まりました。公立中学校での日本語 I と II、そして、エレクトティブクラスからのスタートでした。まず大変苦勞したのは、全く経験の無かったアメリカの学校のシステムに慣れることでした。日本語をアメリカ人の中学生に教えるということにも、大

変苦勞しました。一筋縄では全く通用しないということを実感しました。幸か不幸か一年間で7キロも痩せました。

その後、私立高校に移り3年間そこで日本語IからIVまで教えました。実はその頃JTATに加入していましたので、面識・お名前等を存じ上げている先生方もいらっしゃると思います。改めてご挨拶いたします。3年間教えていたその私立高校は、日本語クラスを閉鎖することが決まりましたが、運よく今の私立女子高校につなげることが出来ました。しかも、サンアントニオで教えていられる先生方の心温かい援助もいただくことが出来、感謝の気持ちを持って日々頑張っております。ここIWHSの日本語クラスはとても少人数です。ここでの私のミッションは、日本語クラスの知名度を上げ、多くの生徒に「日本語と日本文化」に触れてもらうことです。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

### Scott Langton 先生

My name is Scott Langton and I teach Japanese language and culture at Austin College, a small liberal arts college in Sherman, Texas. This year marks my eleventh year teaching here. In addition to my teaching responsibilities during Fall and Spring semesters, I occasionally accompany students to Japan as part of our January Term course offerings. I look forward to the opportunity to interact with you in the future.

Associate Professor of Japanese & Director of Asian Studies  
Department of Classical & Modern Languages  
Austin College

### David Bennett 先生

I just wanted to briefly introduce myself.

My name is David Bennett and I have recently moved to Austin after a few years in Vancouver, and prior to that Japan.

I finished my Masters in Classical Japanese Literature and was a teacher of Japanese at the University of Toronto for 2 years some time back.

While I am not practicing anymore, I still am very interested in teaching Japanese, how students learn Japanese and keeping my language skills sharp.

### Masaki Nakamoto 先生

My name is Masaki and this is my first semester teaching any Japanese class. Previously I have taught Spanish I through V and this year I have been given an opportunity to teach my first language.

I look forward to networking with other Japanese teachers in Texas. I am looking to team up with other teachers who are willing to help each other in prepping our students for the AP exam. My students need more conversational practice with Japanese speakers. I hoping that some teachers in their free time might converse with my students via Skype to gain more experience and confidence in talking Japanese. Of course, I am willing to do the same for the students of other teachers. Let me know if you are interested in this idea.

## 7. 2014年日本語スピーチコンテスト

2014年のスピーチコンテストの参加資格と評価基準が JTAT のウェブサイトに掲載されましたので、リンクはこちらをごらんください。

<http://www.jtat.org/SpeechContestIndex.html>

尚、参加方法、オンライン参加用紙などの詳細はヒューストン日米協会のスピーチコンテストサイトに今年末または来年早々にアップデートされるとのことですので、今しばらくお待ちください。

各地区のコーディネーターの先生方

オースティン地区：清水先生 dsimizu@austinisd.org

ダラス地区：真田先生 sanadak@cfbisd.edu

サンアントニオ地区：川邊先生 ykawabe@alamo.edu

ヒューストン地区：福重先生 sachiko.fukushige@gmail.com



JTAT 2014年夏の勉強会 5月19日テキサス大学オースチンにて

---

Call for Articles for the next issue of JTAT Newsletter!

各地区の皆様からの投稿をお待ちしております。

Please contact [ykawabe@alamo.edu](mailto:ykawabe@alamo.edu)